

2022 年 2 月 28 日

中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ

2021 年度後期活動報告書

抄録

2022 年度後期は、全学期を通して、オンラインセッションと対面セッションの同時開室を実施した。セッション数は 635 件（うちオンライン 486 件、対面 149 件）、稼働率は 61.1%であった（I-3）。実施セッション数は昨年同時期比 178.9%増となり、4 名のチューターの就任、受付業務への支援などで、設置セッション数を増加できたことが学習支援に繋がったといえよう。また、同時開室を大きな混乱なく実施できたことが、今学期の大きな収穫といえる。同時開室に関わる関連業務の増加・煩雑化があったものの、院事務より受付業務への支援を受けることができたため、セッション外の業務についても滞りなく実施できた。また、新人チューター研修に関しては、新人チューター全員から学内での研修への協力を得ることができ、効率的・効果的に実施できたことが、今学期の円滑な運営に繋がった。その他、今学期特筆すべき点として、以下 2 点を述べる。

まず、セッション実施状況であるが、全学期通してある程度のセッション利用率があったことが新たな傾向として挙げられる。従来は、文学部の卒論提出前である 11 月 12 月が混雑する傾向にあったが、今学期は学期開始当初から一定数の利用があり、1 月も文学部以外の学生の利用が多く見られた。このことより、文学部以外の学部へのラボの周知が高まっていること、後期も卒論以外のレポート執筆に向けてラボを利用する学生が一定数いることがいえよう。

次に、チューターの支援の広がりに関して、セッションで受ける相談が、アカデミック・ライティングの観点以外であることも見られた。主に学部生からの相談であるが、ゼミでの学修についての相談、大学院生活についての質問など、質問は多岐に渡った。答えられる質問のみ対応するという基本方針で臨み、チューターへの大きな負担には繋がらなかったと思われる。大学院生チューターがセッションを担当することにより得られる安心感や親近感が、利用学生からの様々なニーズの表出に繋がったといえよう。チューターの負担増加にならないように、運営側の目配りが必要であるものの、学生のニーズに応じた柔軟な支援に繋がられるよう工夫していきたい。

以 上

はじめに

2021 年度後期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。
I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期に向けて特筆すべき
所見を述べる。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間：2021 年 9 月 20 日から 2022 年 1 月 21 日までの月・火・水・木・金曜日

開室日数：72 日（前年度 56 日）

設置セッション数：1039 コマ（前年度 588 コマ）¹

アカデミック・ライティング部門長：尹 智鉉

スーパーバイザー（SV）：中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー（ASV）：峰尾菜生子

シニアチューター（ST）：5 名

チューター12 名

I-2 受付方針（2021 年度後期）

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類（対象文章かそれ以外か）に基づく。

1. 対象文章

授業で課題となったレポート及び発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、
投稿論文、プレゼンテーション原稿（スライド用・口頭用）、研究計画書、ボランテ
ィアセンター報告書、総合政策部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章（例年は予約不可）

奨学金応募書類に含まれる志望動機書

留学志望書

公務員試験練習課題

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

¹ 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。

外国語／日本語翻訳（授業の課題のみ）

3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章（キャリアセンターへ案内）

メールや手紙の文章

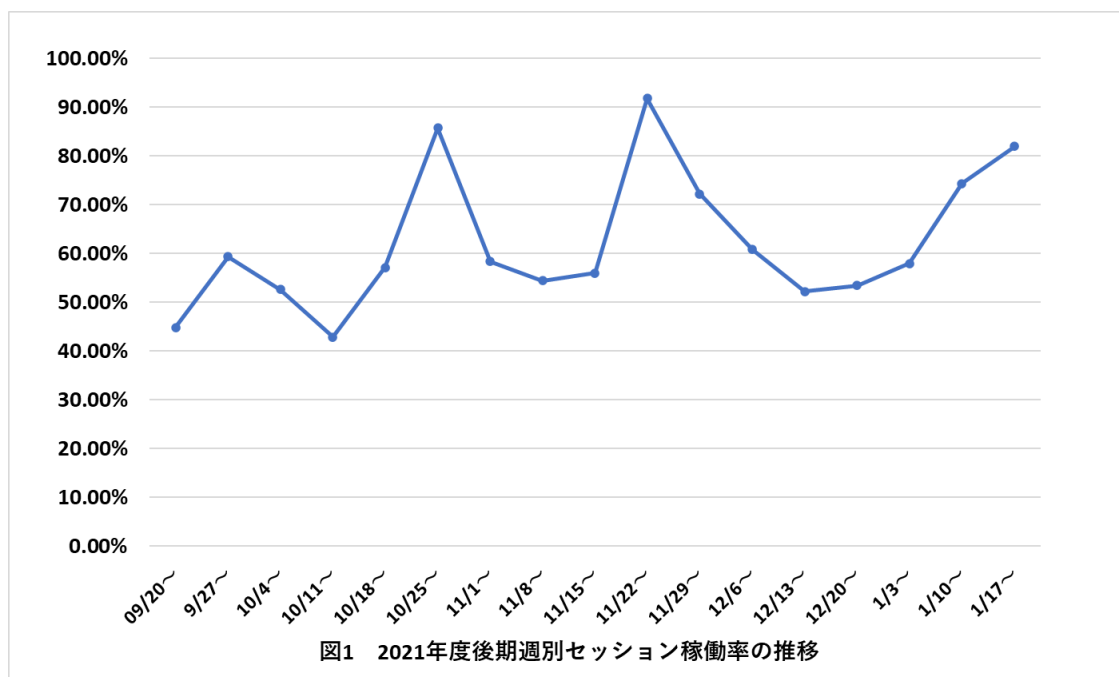
公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

1-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数：635 件（前年度 355 件、前年度比 178.9%）

セッション稼働率：61.1%（前年度稼働率 60.4%）

セッションの稼働実態を把握するため、以下に、週毎の稼働率の推移（図 1）、週別・曜日別のセッション数と稼働率の表（表 1、表 2）を示す²。



² 今年度は例年と異なる開室状況のため、例年報告している月別の稼働率、ライティング・ラボ開設時からの利用学生数の推移は記載しない。代わりに週ごとの稼働率を示した。

表1 週別・曜日別セッション数・稼働率（9月第3週～11月第3週）

		09/20～	9/27～	10/4～	10/11～	10/18～	10/25～	11/1～	11/8～	11/15～
月	設置数		12	10	10	10	10	12	13	13
	稼働数		3	6	4	9	6	8	8	11
	稼働率		25.00%	60.00%	40.00%	90.00%	60.00%	66.67%	61.54%	84.62%
火	設置数	13	13	9	11	13	11	9	14	13
	稼働数	6	10	9	5	7	12	4	9	9
	稼働率	46.15%	76.92%	100.00%	45.45%	53.85%	109.09%	44.44%	64.29%	69.23%
水	設置数	12	7	12	12	10			12	12
	稼働数	5	6	4	3	3			4	7
	稼働率	41.67%	85.71%	33.33%	25.00%	30.00%			33.33%	58.33%
木	設置数	19	15	14	17	12		11	18	17
	稼働数	5	12	7	5	4		8	7	6
	稼働率	26.32%	80.00%	50.00%	29.41%	33.33%		72.73%	38.89%	35.29%
金	設置数	14	12	12	13	11		16	11	20
	稼働数	10	4	4	10	9		8	9	9
	稼働率	71.43%	33.33%	33.33%	76.92%	81.82%		50.00%	81.82%	45.00%
計	設置数	58	59	57	63	56	21	48	68	75
	稼働数	26	35	30	27	32	18	28	37	42
	稼働率	44.83%	59.32%	52.63%	42.86%	57.14%	85.71%	58.33%	54.41%	56.00%

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率（11月第4週～1月第3週および後期全体）

		11/22～	11/29～	12/6～	12/13～	12/20～	1/3～	1/10～	1/17～	後期全体
月	設置数	12	14	16	17	20			19	188
	稼働数	14	11	12	14	9			19	134
	稼働率	116.67%	78.57%	75.00%	82.35%	45.00%			100.00%	71.28%
火	設置数		13	14	14	13			13	173
	稼働数		10	7	10	12			7	117
	稼働率		76.92%	50.00%	71.43%	92.31%			53.85%	67.63%
水	設置数	11	12	12	12	8		12	12	156
	稼働数	10	10	5	6	6		11	7	87
	稼働率	90.91%	83.33%	41.67%	50.00%	75.00%		91.67%	58.33%	55.77%
木	設置数	20	20	21	27	27		23	22	283
	稼働数	15	15	16	14	10		15	18	157
	稼働率	75.00%	75.00%	76.19%	51.85%	37.04%		65.22%	81.82%	55.48%
金	設置数	18	20	16	20	20	19		17	239
	稼働数	17	11	8	3	10	11		17	140
	稼働率	94.44%	55.00%	50.00%	15.00%	50.00%	57.89%		100.00%	58.85%
計	設置数	61	79	79	90	88	19	35	83	1039
	稼働数	56	57	48	47	47	11	26	68	635
	稼働率	91.80%	72.15%	60.76%	52.22%	53.41%	57.89%	74.29%	81.93%	61.12%

注) 100%超の週は、提出期限直前等の学生対応のため、設置数より多くセッションを行った週である。

【所見】

今期の実施セッション数は、前年度比 178.9%であった。実施セッション数増加の主な要因として、次の 3 点が挙げられる。第一に、11 月より新人チューター4 名がセッションを担当するようになり、設置できるセッションの枠が増加したためである。第二に、学期を通して学内施設を開室したためである。学内施設の開室により、セッションの当日受付と実施、施設入口の装飾や見学ツアーの実施などの広報活動が行いやすくなった。結果として、利用促進につながったと考えられる。第三に、前期に利用した学生が継続的に利用しているためである。以上 3 点の要因によって、実施セッション数が増加したと考えられる。

稼働率は前年度に比べて 0.7 ポイントの微増であった。図 1 に示した週別の稼働率をみると、論文やレポートの提出がある学期末の稼働率が高い傾向は例年通りだが、昨年度と比べて各週に利用が分散している。昨年度は 9 月中の稼働率は 30%未満、10 月は 40%程度であった。一方、今年度は 9 月の稼働率が 50%程度であり、後期授業開始時から利用する学生が増えていることがわかる。また、11 月以降の学期後半も、昨年度より 1 週程度早く稼働率のピークが来ている。卒業論文・修士論文向けのポスターを貼り出すなど、早めの利用を呼びかけたことが功を奏したと考えられる。12 月と 1 月の稼働率は 60%から 70%台であり、例年よりも低かった。早めの利用が多かったことに加えて、例年の利用状況を踏まえて、12 月から一部の曜日でセッション数を増やしたことが稼働率低下の要因として考えられる。

稼働率が 100%近くになると、チューターの疲労蓄積や超過勤務、セッション以外の業務に割ける時間の減少など、運営上の問題が出てくる。各週 70%程度の稼働率となるよう、来年度も引き続き、利用者が比較的少ない 10 月頃の利用推奨を強く呼びかけていきたい。

1-4 利用学生の内訳³

*利用学生数（延べ）⁴

2021 年度後期合計 635 名（前年度 355 名）

*利用学生の所属

法学部	109 名（通信教育課程 1 名含む）
経済学部	76 名
商学部	19 名
文学部	171 名
総合政策学部	61 名
理工学部	1 名

³ 今年度は利用学生が留学生かどうかはたずねていないため、日本人学生と留学生の内訳は記載しない。

⁴ 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

法学研究科	43 名
経済学研究科	5 名
商学研究科	2 名
文学研究科	46 名
総合政策／公共政策研究科	100 名
理工学研究科	2 名

*利用学生の学年

学部 1 年	99 名
学部 2 年	38 名
学部 3 年	34 名
学部 4 年	264 名
学部 5 年以上	2 名
博士課程前期／修士	106 名
博士課程後期	92 名

1-5 相談文章の種類

卒業論文・修士論文・博士論文	301 件
授業のレポート	128 件
投稿論文	73 件
研究計画書	36 件
授業の発表資料	37 件
学外で発表予定の資料	12 件
ゼミ論文	2 件
その他 ⁵	46 件

【所見】

利用学生の所属内訳からは、文学部、法学部、総合政策／公共政策研究科、文学研究科、法学研究科の学生の利用が多いことがわかる。文学部や法学部の学生の利用が多い要因として、学部教員との連携や文学研究科や法学研究科所属のチューターの多さが挙げられる。授業内でのライティング・ラボの利用推奨、出張宣伝への協力、チューターが TA をしている授業での紹介などにより、ライティング・ラボの認知度が高いことが推測される。利用学生が多い研究科は、修士論文や投稿論文などの相談で継続的に利用する留学生が多かった。

⁵ ゼミの応募書類（志望理由書等）、留学志望理由書、授業のリアクションペーパー、教場試験の課題、研究要旨、大学広報誌の記事、大学教員公募書類（教育と研究の抱負）等。

一方、商学部および商学研究科の学生の利用は、他の学部・研究科に比べて少なかった。商学部・商学研究科の学生の利用を促すために、商学部教員に対する広報活動に力を入れるとともに、ニーズを探っていきたい。わずかではあるものの、理工学部や理工学研究科の学生の利用もあった。2023 年度には法学部の移転もあるため、多摩キャンパス以外に通う学生も利用しやすい環境を整える必要がある。

学年と相談文章の内訳をみると、利用者の 40%弱が学部 4 年生であり、相談文章の約 50% が卒業論文・修士論文・博士論文であった。昨年度までと同様の傾向であり、学年末の論文提出に向けての利用が多かった。I-3 で述べたように、昨年度よりも稼働率のピークが 1 週早まっており、早い時期から継続的に利用する学生が増えていることがうかがえる。大学院生の投稿論文の相談や学部 1 年生の授業レポートの相談も一定数あり、さまざまな学術的文章の相談に乗ることができている。一方、中間の学年にあたる学部 2、3 年生は、他の学年に比べて利用が少なかった。2、3 年生はゼミでの発表が増えることが想定されるため、レジュメやプレゼンテーション資料も対象文章であることを周知し、中間学年の利用を促進したい。

1-6 利用学生へのアンケート結果

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では 10 月 22 日より紙面にて、オンラインは 2021 年 9 月 27 日より Google フォームにて実施した。対面では 66 通、オンラインでは 87 通を回収した。質問項目と結果は以下の通りであった。

ライティング・ラボを知ったきっかけ⁶

ライティング・ラボを知ったきっかけを表 3 にまとめた。

表 3 ライティング・ラボを知ったきっかけ (件数)

	対面	オンライン
学内掲示 (ポスターなど)	11	14
Cplus、manaba	5	16
ライティング・ラボのHP	5	15
Twitter	3	1
先生からの紹介	31	55
チューターからの紹介	2	3
友人、先輩や知人からの紹介	16	15
ライティング・ラボのワークショップ	0	2

⁶ 複数回答可とした。

その他	0	2
	(事務室からの紹介	1)
	(高校で利用経験あり	1)

【所見】

表 3 からわかるように、来室のきっかけは、対面とオンラインいずれも「先生からの紹介」が最も多く、約半数の学生が挙げていた。学内でのライティング・ラボの認知度が高まり、利用を推奨する教員が多くなっていることがうかがえる。今後も教員向けの宣伝を重視していきたい。また、次に多いきっかけが「友人、先輩や知人からの紹介」であることから、身近な人のすすめによってライティング・ラボを利用している学生が多いといえる。知り合いからの紹介だとライティング・ラボの雰囲気伝わりやすく、安心して来室しやすいと考えられる。身近な人からの紹介だけではなく、「学内掲示」をきっかけとした利用も少なくない。後期に力を入れたポスターの掲示や立て看板の設置などの効果が表れていると推測される。今後も学生が安心して来室できるように、ライティング・ラボの雰囲気を伝える広報活動に力を入れていきたい。

セッションは有益だったか⁷

セッションが有益だったかどうかに対する回答を表 4 にまとめた。

表 4 セッションは有益だったか (件数)

	対面	オンライン
有益ではなかった	0	0
あまり有益ではなかった	0	0
どちらともいえない	0	1
有益だった	4	14
とても有益だった	62	72

セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述でたずねた。回答をまとめると、「一緒に検討する過程でのやりとり」「構成、構成要素に関する気づき」「内容や思考の整理に関する気づき」「文や語句に関する気づき」「作業手順に関する気づき」を有益だと感じていることが示された。

⁷ 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益だった」「とても有益だった」の 5 段階評価。

【所見】

表 4 からわかるように、アンケートに回答した学生の 95%以上が、セッションが有益であったととらえている。回答例にあるように、チューターが丁寧に利用学生と対話するなかで、構成や思考の整理、学術的文章の作法の確認などができ、有益だと感じている様子がかがえる。

セッションの時間⁸

セッションの時間についてどう感じたかについての回答を表 5 にまとめた。

表 5 セッションの時間についてどう感じたか (件数)

	対面	オンライン
短かった	5	3
少し短かった	17	25
妥当だった、ちょうどよかった	42	59
少し長かった	0	0
長かった	1	0

対面セッションの良かった点⁹

場所がわかりやすかった	10 件
セッションブースなどの環境が整っていた	27 件
文章の共有が楽だった	31 件
チューターとの意思疎通がしやすかった	62 件
その他	1 件

「ノート PC を持つ場合に、同時に文章を直すことができます」

対面セッションで困った点

場所がわかりにくかった	10 件
セッションブースなどの環境整備に問題がある	0 件
文章共有の準備に手間取った	6 件
チューターとの意思疎通が難しかった	0 件
その他	3 件

⁸ 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の 5 段階評価。

⁹ 複数回答可とした。「対面セッションで困った点」「オンラインセッションの良かった点」「オンラインセッションで困った点」も同様。

「準備が足らずに整理に時間を取ってしまった」

「私が資料を事前に送っていなかったので時間がかかった」

「行かないとだめ」

オンラインセッションの良かった点

移動の手間が省けた	79 件
文章やデータの事前共有が楽だった	57 件
対面とは異なり緊張せずに済んだ	26 件
特になし	2 件
その他	3 件

「文章をパソコンで便利に修正できて、時間を省けます」

「修正後の文章をすぐ保存できる」

「時間の融通が利きやすく、予約がとりやすい」

オンラインセッションで困った点

場所の確保が難しかった	0 件
文章やデータの事前共有が大変だった	4 件
どのように操作すればよいのかわからず不安だった	2 件
チューターの声が聞き取りづらいときがあった	8 件
特になし	74 件
その他	1 件

「ネットの接続が弱いとき大変であった」

より良いライティング・ラボにするためのアドバイス

より良いライティング・ラボにするためのアドバイスとして自由記述で回答を求めたところ、「セッション時間の延長希望」(5 件)「土曜日開室希望」(1 件)「オンラインセッションの継続希望」(1 件)「予約方法の改善希望」(1 件)という要望が出された。また、「広報活動の強化」(1 件)「オンラインセッション時の音声の乱れ」(1 件)「セッションにおける沈黙」(1 件)に関する意見も挙げられた。

【所見】

表 5 のセッション時間についての回答、対面およびオンラインのセッションでの良かった点や困った点、ライティング・ラボへの要望をまとめると、主に以下の 4 点のことが明らかにされた。

第一に、7 割弱の学生が 40 分間のセッション時間を妥当だと感じているものの、セッション時間を短く感じ、延長を希望する学生もいることがわかった。1 回 40 分間というセ

セッション時間の設定は、学生と対話しながらセッションを組み立てる上で妥当であると考えられる。時間内でできることとできないことを利用学生に伝えるとともに、早めの利用や継続的な利用を呼びかけていきたい。

第二に、対面セッションでは、9割以上の学生がチューターとの意思疎通がはかりやすいことを利点ととらえていることがわかった。表情や身振り手振りなどの非言語的な要素もあり、お互いの様子がわかりやすいためだと考えられる。逆に、オンラインセッションでは、非言語的な要素が少ない上に、通信や音声途切れる場合があるなど、対面に比べて意思疎通がはかりにくいという問題があった。対面での意思疎通のしやすさをセッションに活かしていくとともに、オンライン上での意思疎通を工夫していく必要がある。

第三に、オンラインセッションでは移動の手間が省けることや文章の共有がしやすいことが主な利点としてとらえられている。これらの利点によって、学生は気軽にセッションを受けやすくなると考えられる。

第四に、対面セッションでは、施設の場所がわかりやすいととらえていると学生とわかりにくいという学生が同程度いることがわかった。ライティング・ラボのあるフォレストゲートウェイは新しくできた建物であり、立ち入ったことのない学生も少なくないと考えられる。施設入口付近での立て看板の設置、各学部でのポスター掲示など、場所を認知してもらえるように広報活動を強化する必要がある。

以上のように、学生のアンケート回答から、対面セッション、オンラインセッションそれぞれに利点と改善点があることが示された。今後も対面とオンラインのセッションを併用して、学生のニーズに応えながら利用しやすいライティング・ラボにしていきたい。

1-7 遠隔セッションに対するチューターの評価

後期の業務振り返りと次年度に向けた業務改善を目的に、学期終了後、チューターアンケートを実施した。主な質問項目と結果は以下の通りである。

1-7-1 対面セッションとオンラインセッションの同時開室について

同時開室の良かった点に関しては、「学生の多様なニーズに応えることができた」という旨の回答が多く見られた。遠方の学生がセッション形式を選べるようになったこと、コロナ禍でも精神的サポートに繋がったこと、対面コミュニケーションに負担を感じる学生の負担減につながったこと、各自の状況に合わせてセッション形式を選択できること等の回答から、学生の多様なニーズに合わせた支援をチューターが工夫できていたといえよう。

同時開室の問題点として、対面とオンラインセッションでは進め方に差異もあるため、「両方に対応するのが大変だった」という回答が2名から見られた。形式の異なるセッションを行うために、意識面、環境面ともに素早い切り替えが必要であり、負担増に繋がっていたといえよう。チューターの負担を考慮して、セッション担当を組むなどの工夫が求められる。

また、今学期は、学内勤務と在宅勤務のチューターにわかれ、学内勤務のチューターのみが対面セッションに対応したため、「セッション数の負担に偏りが生じていた」点をあげる声があった。来学期からは、全チューターが学内勤務となるものの、業務量のバランスに注意を払いたい。

1-7-2 セッション以外の業務について

セッション以外の業務に関しては、受付業務を院事務に移管できたことによる負担減を挙げる声が複数みられた。また、全学メール付随の「グーグルに共有フォルダを移行したことで引継ぎ業務の手間が減った」という声もある。受付業務や引継ぎ業務に関してはチューターの負担減に繋がる取組が効果的であったといえよう。

ただし、在宅勤務のチューターからは「自分のパソコンや iPad を使ってすぐに作業に取り掛かれたので、在宅勤務の方がはるかに効率が良かった」という肯定的な意見がある一方、「対面だけの時は空いている時間にチューター同士でやり取りできた」が「オンラインだと与えられた仕事をこなすだけ」となること、また「同じだけの情報を共有できているのか、連絡事項に漏れが無かったりしないか、少し不安」があるという意見もあった。情報共有はチューターの不安を取り除くとともに、セッションスキルの向上にも欠かせない。そこで、来期からはチューターの空き時間を一定程度確保し、情報交換する場を設けることで、セッションスキルの向上へと繋げていきたい。

1-7-3 セッションツールについて

Google ドキュメントやスライドの利用に関して、肯定的な意見が複数見られた。「今までの対面における作業と異なり共同作業ができていると感じた」という意見もあり、セッションで有効活用していることがわかる。

今年度作成したラボの資料「レポートの書き方」もセッション内で活用する事例が多くみられた。「レポートの書き方を見せられる」「言葉だけでは理解してもらいにくい、パラグラフ・ライティングやブロック引用を説明する際に、特に冊子を利用」等の回答があった。

対面セッションでもモニターを利用して、文章を共有できた点が「学生と一緒に作業が出来る」等好評であった一方で、ブレインストーミングには「ペンタブレットか書画カメラを導入すれば、ブレストがやりやすそう」だという意見もあった。セッションで利用するツールについては、可能な範囲でより効果的なツールを検討していきたい。

1-7-4 研修について

チューター主体で実施したチューター研修については、「チューター間のコミュニケーションを創出する意味においても非常に有効であった」「キャリア違う者同士が議論しながら作れるので良い」「チューター同士でやり取りするのが難しい状況なので、こうして共有の場を設けるのは大事なこと」等肯定的な意見が大半であった。来期以降もこの方

式でチューター研修を実施したい。

希望する研修テーマに関しては、「対面セッションの手法」「研究計画書のセッションに関する研修」「グループセッションに関する研修」「抽象度の調節」「他のチューターのセッション見学」など具体的な意見が出た。これらの意見を中心に来期の研修を企画していきたい。

I-7-5 来期への意見・要望

来期への意見・要望に関しても、多様な回答が見られた。「多摩以外のキャンパスへの広報」の必要性、「レポートの書き方」に加えて『レジュメの作り方』も冊子として制作する、「予約申込時に、どの箇所を重点的に見てほしいのか記入できるフォームを追加する」、予約の内容が確認できる「確認メール」を送る、など具体的な提案が多数見られた。チューターの業務負担増にならない範囲で、検討していきたい。

II セッション以外の活動

II-1 IT 関連業務

II-1-1 関連業務の種類

- * オンラインセッション用 zoom の立ち上げ、zoom 内学生案内等
- * メール対応
- * オンライン予約管理
- * HP 管理
- * ツイッターによる開室状況の通知
- * 学内ネットワーク利用によるデータ管理

II-1-2 データ管理

上記、関連業務のうち、今期より変更となったデータ管理につき、以下報告する。

* 今期より学内ネットワーク付随のグーグルドライブにてセッションデータ他の管理を開始した。理由としては、前期まで利用していた DropBox に容量制限があるため、容量無制限の管理ツールに移行する必要があったためである。

* 学内者しか利用できないドライブであるため、情報保護の観点からもより安全性が高い。

* セッション時にグーグルドキュメントの形式で学生と文章を共有をするが、その際にデータ変換などが不要で、作業が楽である。

情報保護に関する安全性も確保でき、作業効率も向上したため、データ管理に関しては、学内ネットワークの利用を継続する。

【所見】

オンラインセッションと対面セッションの同時開室により、予約管理・HP 管理・学生データ管理など付帯業務が増加・煩雑化した。しかしながら、院事務から受付・学生対応業務などの支援を受けられたことで、チューターがセッションに集中する環境を作ることができた。今後もセッションに集中する環境作りに向けた取り組みをしていきたい。

II-2 広報活動

II-2-1 ガイダンス

今期は2件の実施に留まった。ラボツアーに関しては、その後のラボ利用に繋がった学生も多く、広報の効果が高いといえよう。コロナ感染状況次第ではあるものの、来学期は新入生に向けラボツアーを利用した宣伝をしていきたい。

II-2-2 宣伝物作成

ラボ活動の視覚化に向け以下宣伝物2種を作成した。申し込みからセッション実施までの流れがわかるようなポスターを作成し、入口に掲示した。また、チューターの紹介をHP 上で行った。「誰が何ができるところか」がわかる工夫をすることで、学生の利用に繋げていきたい。

【所見】

ラボの存在を知らなかったという学生が一定数いるため、今後も、掲示物による周知また教員を通じた間接的な周知に加え、学生に向けた直接的な周知の工夫を行いたい。

II-3 研修

II-3-1 新人チューター研修

後期着任の新人チューター4名の研修を実施した。

- * アカデミック・ライティング支援の概要、中大の取り組み、ラボの理念について
- * チューター業務内容について
- * セッションの進め方等セッションに関して
- * 配信資料の使い方について
- * 文章診断練習
- * 模擬セッション
- * 先輩チューターによるセッション見学

などを約1ヶ月半かけて実施した。12月には4名とも独り立ち審査(SVが審査)に合格

し、チューター業務を一人で行っている。

II-3-2 チューター研修

今学期のチューター研修はチューター同士の学び合いを目的とした。そこで、各曜日で一度ずつチューター研修の企画を担当し、研修への能動的な関わりをもたせ、チューター間での学び合いを生起させた。ベテランチューターからのセッションスキルの転移、新人チューターのセッション振り返りなどに繋がり、チューター研修の質の向上に繋がったといえよう。以下、研修のテーマを示す。なお、従来は全体研修と曜日内研修を分けて実施していたが、今期は全体チューター研修と曜日内研修を統合し、全体チューター研修の事前課題を曜日内で実施することとした。

《全体チューター研修テーマ》

- 10月 検討文章が長い場合のセッション
- 11月 留学生に対するセッション
- 11月 卒論のセッション
- 1月 新人チューターのための相談会（セッション目標の立て方等）
- 1月 新人チューターのための相談会（話すことが苦手な学生の場合）

【所見】

9月10月のセッション業務に比較的余裕がある時期に曜日毎に研修内容を練った。11月以降の繁忙期はセッション数も増加し大変であったと思われるが、各テーマに関してチューターが学び合い、興味深い研修に繋げることができた。チューターの負担にはなるものの、受付業務等の負担減があることから、今後もチューター自身が企画・実行するチューター研修を行いたい。なお、企画に関しては各曜日のシニアチューターが中心となって取りまとめ、SV,ASVは、テーマ決定の他は助言する立場で関わっていくこととしていきたい。

II-4 中央大学杉並高等学校へのチューター派遣

別添1参照。

II-5 合理的配慮の必要な学生への対応

今学期もキャンパスソーシャルワーカー（以下CSW）からの紹介で、合理的配慮の必要な学生（主に3名）へのセッションを実施した。

セッション自体は、通常通りアカデミック・ライティングの観点からのセッションが可能である。しかしながら、各学生の特性や精神的負担を考慮すると、継続して一貫的な支援

が必要となるため、SV が継続して担当した。今後も CSW と協働し、各学生の特性に沿った丁寧な支援を行っていききたい。

III 来期に向けた所見

III-1 チューター公募

後期は下記のスケジュール通りに公募を実施する。週 5 日開室が安定して実施できるようチューター体制を整えたい。

- 2 月 18 日 応募書類受付締め切り
- 3 月 8 日 選考（書類審査&オンライン面接）
- 4 月 1 日 着任

III-2 アカデミック・ライティングの観点以外からの学生支援

主に学部生のセッションにおいて、精神面でのフォローや、院生活に関するアドバイスなどを行うことがあった。いずれもセッション中に、学生から需要が出てきたものであった。

大学院生チューターによる支援が、利用学生に安心感や親近感を与えた結果、支援の幅の広がりに繋がったといえよう。来期は具体的に学生にどのようなニーズがあるのか、アカデミック・ライティングの観点以外に行ったアドバイスに関して調査を実施したい。

III-3 シニアチューター育成

5 名のシニアチューターのうち、2021 年度に 2 名が退職となる。来期はシニアチューターの育成が喫緊の課題といえよう。シニアチューターには、チューター研修・IT 業務関連・広報活動に中心的な役割参加を期待したい。

以上

2022 年 2 月

スーパーバイザー 中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー 峰尾菜生子

別添1

2021 年度中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ

中央大学附属杉並高校遠隔セッション(後期) 実施報告書

2022 年 1 月 12 日(水)

担当チューター：上條 由貴

黒田 将司

1. 開室日時

(1) 開室日

10 月：4(月)・8(金)・11(月)・15(金)・22(金)・25(月) 計 6 日間

11 月：5(金)・8(月)・11(金) 計 3 日間

以上より、 $6+3=9$ (日間)

(2) 時間帯・場所

各日①15：50～16：30、②16：40～17：20、③17：30～18：10 で実施。

場所については、多目的教室または自宅から通信を行う形で実施。

通信は Cisco 社の WebEx Meetings を活用し、文書等の共有は同システムのほか、Google ドキュメントおよび Google スライドを活用し実施した。

2. 担当チューター

月曜日：上條 由貴チューター (文学研究科 博士前期課程 2 年)

金曜日：黒田 将司シニアチューター (法学研究科 博士後期課程 1 年)

3. セッション設置数

各日 3 セッション(11/11(金)のみ 2 セッション)設置。したがって、

10 月： $3 \times 6 = 18$ (セッション)

11 月： $3 \times 2 + 2 = 8$ (セッション)

以上より、設置数 $= 18 + 8 = 26$ (セッション)

4. セッション実施数

10月：16件（内訳…月曜9件・金曜7件）

11月：8件（内訳…月曜3件・金曜5件）

以上より、実施数=16+8=24(件)

5. 稼働率

稼働率=実施数÷設置数とし、かつ小数点第2位以下を切り捨てとして算出した結果、以下の通りとなった。

10月の稼働率： $16 \div 18 = 0.888\cdots \doteq 88(\%)$

11月の稼働率： $8 \div 8 = 1 = 100(\%)$

全体の稼働率： $24 \div 26 = 0.923\cdots \doteq 92(\%)$

6. セッション所見

(1) セッション環境・稼働率について

今期はコロナウィルスによる緊急事態宣言の影響で、前期に引き続きオンラインでセッションを実施した。セッションの開催・進行は前期の時点で確立したため滞りなく実施することができた。

今期セッションの特筆すべき点は2点ある。1点目はセッションの稼働率である。今期セッションの稼働率は92%と非常に高かった。特に11月の稼働率は100%であることから、10月の稼働率88%と比較して締め切り間近におけるラボの需要の方が高かったと見られる。昨年度も稼働率が90%を超えている点をふまえると、今後もラボに対する需要は高いと見られる。したがって、セッション枠および担当チューター数の増加を行うことでさらなる需要が見込めるのではないかと考えられる。

2点目は、自発的にラボを利用する生徒が見られたことである。その要因として、利用者の口コミが友人等に広まったことで興味を持ち利用したという声が多々見られたからである。このことから、ラボを実際に利用した生徒の声を紹介する等安心して利用できる環境を整備することでより利用者の増加を見込めるのではないかと考えられる。

以上のように、今期は利用率の高さのみならず生徒側の自主性の養成を見ることができた点で非常に有意義のあるセッションだったといえる。

(2) 生徒がどういう悩みを持って来室したか

【月曜担当チューター】

月曜日に関して、前期とは異なりハイオーダーからローオーダーなものまで、悩みは様々だった。具体的に、以下のような相談があった。

- ・先生からの指摘を解消できているか（主語述語のねじれ、前後の文章のつながり等…）
- ・書き終わっているが、より良くしたい
- ・最終確認をしたい（文章全体を見てほしい）
- ・掲載した図や表は適切か（主張を強めているのか）

また、提出期限が近づくとつれ、文章全体の流れや読み手を意識した文章であるか等の相談が増加した印象だった。

その他に、今期において文章を全く書けていない状態の学生は見られなかった。

【金曜担当チューター】

金曜日に関して、アイデアまたはほぼ完成の段階で利用する生徒が大部分を占めていた。悩みの内容に関しては、具体例として以下の内容が相談された。

- ・先生から指摘された箇所の修正をしたい
- ・自分の主張を文章内で反映できているか確認したい
- ・全然アイデアがまとまらず、またテーマが上手く定まらないため文章が全く書けない
- ・結論をどう導けばいいか分からなくなり、筆が進まなくなった

以上の相談をアカデミックライティングの観点から整理すると、「問いと答え」、「構成と構成要素」、「主張と根拠」に集約することができた。

その他として、文章が全く書けていない状況の生徒が多々見られた。その上、提出期限が近く相当焦っている様子だったため、精神面で安心させた上で問題に対処する必要性が生じた。

(3) どのような観点からセッションを進めたか

【月曜担当チューター】

特に主張と根拠、パラグラフ・ライティングを中心にセッションを進めた。また、文章がある程度書いている場合において、最初と最後の方に書いた文の内容に矛盾のある状態の生徒が見受けられた。そこで、論文の中で何に焦点を当てて書くのか、柱になるものは何かをブレさせないよう書くことを意識してもらえようような対話を行った。

【金曜担当チューター】

主に相談内容である問いと答え、構成と構成要素、主張と根拠に関する悩みを中心に検討した。また、セッションにおける質疑応答を通して、以下のような問題が見られた。

- ・ 論点が不明確のためテーマを絞り込めていない
- ・ 不適切なテーマの設定
(例：先行研究が全く無い、締め切りのスケジュール上明らかに無理のある内容)
- ・ 調べ学習でまとめた内容を自分の主張としている

したがって、論点・主張と根拠の明確化のほか類似・近接するテーマへの変更も同時並行で行った。

(4) その他所見等

【月曜担当チューター】

後期は、先生からの進めではなく自主的に参加する生徒が増えたように思われる。「書き上がっているがより良くするためにはどうすればいいか」や「自分でまずいと思ってラボを利用した」という声があった。また、口コミで「友達から、ラボが非常に良かったと聞いて来た」といった声も聞かれ、チューターとして嬉しい限りであった。

セッションでは、「全部見てほしい」という漠然とした要望が少々あった。そのため、40分間の中で出来ることを伝えながらセッションを行ったものの、要望が解消されていないと思った生徒もいたのではないかと思われる。一方で、ほとんどの生徒が対話の中で気づきを得ることが出来たようであった。ラボは「対話をしながら自分の主張や書きたいことを再確認する場」というような周知がなされると、スムーズにセッションが行えるのではないかと思われる。そのためにも、セッションの内容に関する紹介動画は、次年度以降大いに役立つのではないかと思われる。

最後に、緊急事態宣言明けの緊迫した状況の中において、先生方の迅速丁寧な対応のおかげで充実したセッションを行うことができた。中杉高校の先生方に改めて感謝申し上げます。

【金曜担当チューター】

今期のセッションは利用率の高さや生徒の自発的なラボ利用など、新たな傾向を見ることができた点で非常に有意義のあるセッションであった。同時に、セッション運営の面で改善の余地のある点も見出すことができた。そこで、本項では今後の改善の余地について2点挙げて述べる。

1 点目は、セッション関連文書の規格を統一化する必要性である。理由として、相談したい内容や先生のコメントが事前に頂く文章の中に無い場合があり、セッション本番になってから当該情報を確認する必要性が生じるためである。ゆえに、セッション進行の円滑化のため①相談したい内容、②先生のコメントの有無、③探求マップ、④論文・メモ等データの 4 点セットを統一規格にする必要があると考えられる。また、①と②については大学ラボの「ようこそシート」のように 1 つにまとめたテンプレートを作成し、利用希望者が記入し提出する方法も有効であると考えられる。

2 点目は、作成途中でもラボを気軽に利用可能なことを周知する必要性である。理由として、10 月よりも 11 月に利用率が高かったように、締め切りが近いほど稼働率が上昇する傾向が見られたからである。さらに、利用時における文章の完成度がほぼ完成またはアイデア・構成に偏り、作成途中が少ない傾向にあったためである。これらの理由から、ラボはいざという時の駆け込み寺のような立ち位置にある可能性が考えられる。しかし、ラボ自体は作成途中でも検討可能なことを方針としている。したがって、文章の作成状況に関わらず気軽に相談可能な環境であることを宣伝等で周知する必要があると考えられる。

最後に、緊急事態宣言により対面セッション不可という状況にも関わらず、オンラインでのセッション環境の整備や進行の補助等、様々なご支援のおかげで無事終えることができた。中杉ラボご担当の先生方に改めて感謝申し上げたい。

以上